

令和5年度病虫害発生予報第6号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	紋枯病（注意報第5号継続） トビイロウンカ	多 少	多 やや少
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	やや少 並	並 やや多
いちご	うどんこ病 炭疽病 ハダニ類	やや少 並 並	やや少 やや多 やや多
アスパラガス	斑点性病害(褐斑病、斑点病) アザミウマ類	少 並	少 並
かんきつ	かいよう病（注意報第6号） 黒点病 ミカンハダニ	多 やや多 やや少	多 やや多 並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	並 並 並 やや多 やや少 並 少	並 並 やや多 やや多 並 やや多 少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稻

1. 紋枯病

令和5年9月1日付け**病虫害発生予察注意報第5号**を継続。

なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

ア 9月前期の巡回調査(68筆)の結果、発病株率は6.7%(3.5%)、発生圃場率は51.5%(38.2%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は90.0%(51.0%)であった。

2. トビイロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(68筆)の結果、株当たり虫数は0.0頭(0.6頭)、発生圃場率は19.1%(56.9%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.1頭(2.1頭)、寄生株率は8.0%(33.2%)であった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 出穂期以降の防除実施後もその後の発生状況に十分注意し、9月中旬に成虫・老齢幼虫を株当たり5頭以上認めた場合には早急に防除する。
- イ 防除に当たっては、本虫の発生量は圃場間や同一圃場内でも偏りがあるので、圃場の見回りを徹底して、圃場全体の発生状況の把握に努める。
- ウ 本虫は株元に好んで寄生するので、農薬散布は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。
- エ 収穫時期が近いので、薬剤の散布時期に注意し使用基準を遵守する。また、周辺環境を十分に確認し、ミツバチを含め周辺動植物等への飛散等の影響がないよう十分注意する。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 9月前期の巡回調査(9筆)の結果、寄生株率は5.8%(8.0%)、株当たり虫数は0.5頭(0.4頭)、白変葉発生圃場率は55.6%(45.7%)であった。
- イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(寄生株率2.8%、株当たり虫数0.0頭)。
- ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年より少なく推移している(図)。
- エ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

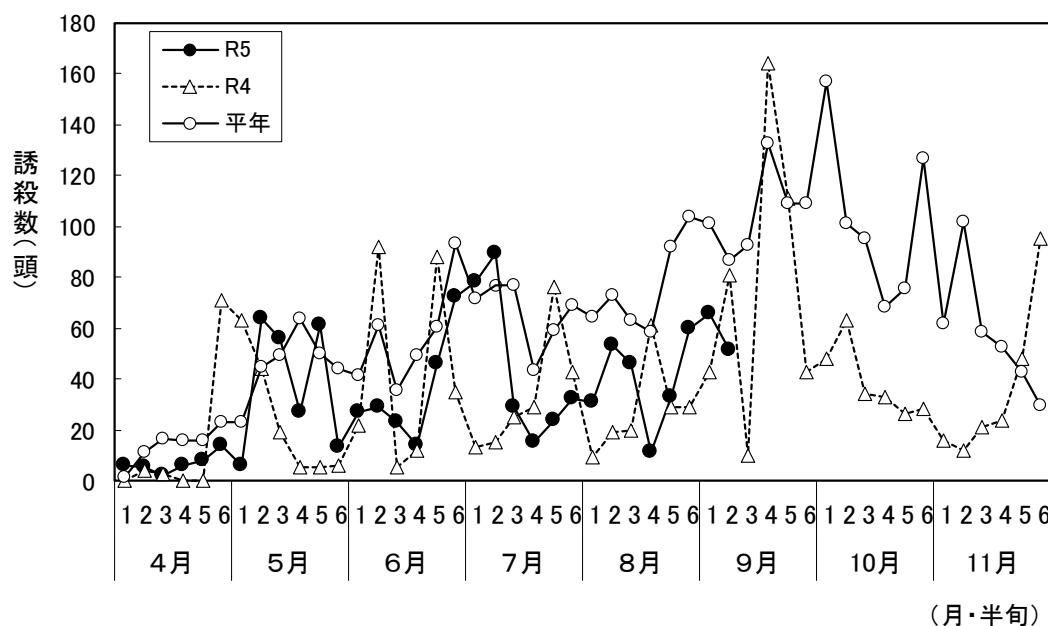


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

2. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 9月前期の巡回調査(9筆)の結果、寄生株率は0.0%(0.4%)、株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)、発生圃場率は22.2%(11.4%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は2.0%(3.1%)、株当たり虫数は0.0頭(0.1頭)であった。

ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 稚莢期から莢肥大期にかけて薬剤散布を行う。また、薬剤は着莢部によくかかるよう、丁寧に散布する。

イ ミナミアオカメムシに対しては一部の薬剤で感受性の低下が報告されているので、薬剤の選定にあたっては十分注意する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(26筆、育苗圃)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.4%)。

2. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(26筆、育苗圃)の結果、発病株率は0.2%(0.2%)、発生圃場率は15.4%(14.9%)であった。発生は圃場間差が大きく、一部多発圃場があった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

本圃で発病すると防除が困難であるので、今後、定植する圃場では苗の選別を徹底し、健全株を定植する。

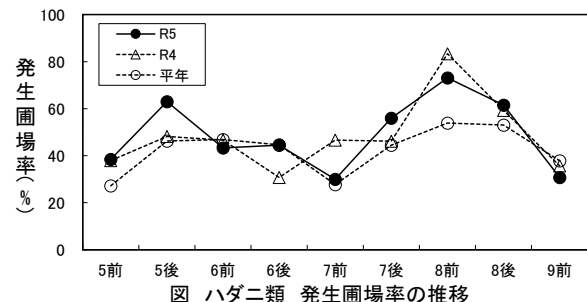
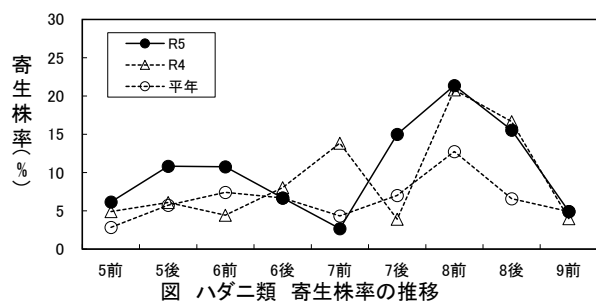
3. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(26筆、育苗圃)の結果、寄生株率は4.9%(4.9%)、発生圃場率は30.8%(37.8%)であった(図)。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 本圃でハダニが多発すると防除が困難になるため、本圃へ持ち込まないように定植前までの防除を徹底する。すでに定植した圃場では、発生状況の把握に努め発生初期に防除する。

イ ハダニ類は下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和5年長崎県病害虫防除基準P214~217の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。また、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤を積極的に活用するが、卵に対する効果が低いので5~7日おきに連続散布を行う。

エ 天敵を用いる圃場では薬剤の選定や使用時期に留意し、天敵に影響の小さい薬剤を使用する。

アスパラガス

1. 斑点性病害

- (1) 予報内容：発生程度 少
(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（10筆）の結果、発病側枝率は2.3%（14.6%）、発生圃場率は40.0%（70.4%）であった。

2. アザミウマ類

- (1) 予報内容：発生程度 並
(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（10筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所）は16.1頭（11.8頭）、発生圃場率は60.0%（52.8%）で一部多発圃場が見られた（図）。

- (3) 防除上注意すべき事項

- ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。
イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P282～283の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

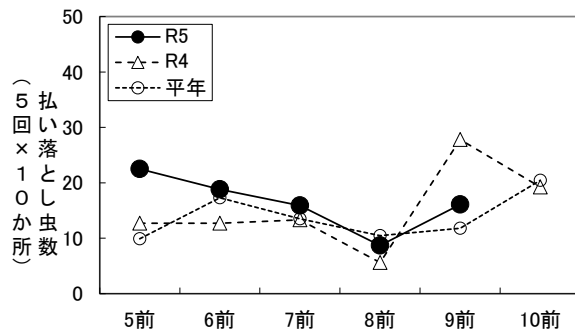


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

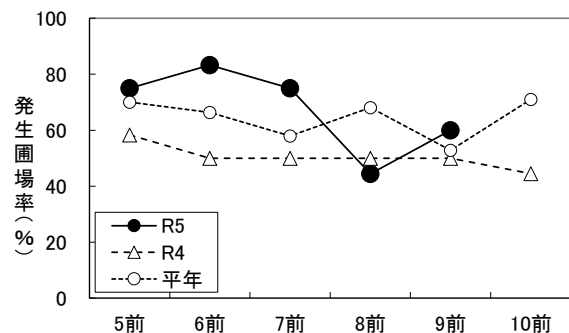


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

かんきつ

1. かいよう病

令和5年9月15日付け**病害虫発生予察注意報第6号**による。

2. 黒点病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病果率は8.2%（5.2%）、発生圃場率は52.8%（33.0%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布にあたっては収穫期に近い品種では使用時期を確認し、使用基準を遵守する。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 並
(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は2.9%（2.7%）、発生圃場率は

16.7% (29.5%) であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 盛夏期を過ぎて気温が低下してくると発生が増加するので、発生初期に防除する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P386～389およびP394～397の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

ウ 薬剤感受性が低下している場合があるので、効果の高い薬剤を選定する。具体的データについては、病害虫防除所ホームページのかんきつのみかんハダニ薬剤感受性検定結果を参照する。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬に実施したヒノキきゅう果のビーティング調査の結果、チャバネアオカメムシおよびツヤアオカメムシの1枝当たりの寄生虫数は1.9頭(2.2頭)で平年並であった(表)。

イ 8月下旬以降、かんきつ園への飛来が確認されており、一部の圃場では落果などの被害が発生している。

ウ フェロモントラップ(諫早市、西海市、南島原市)による誘殺数は平年と比べてやや少～やや多で、地点によって異なる(図)。

エ 予察灯(諫早市：青色・白色、南島原市)による誘殺数は、一部地域で増加している(図)。

オ ヒノキきゅう果の口針鞘数調査結果から、すでにヒノキからの離脱を開始していると思われる(令和5年8月9日付け病害虫発生予察技術情報第2号参照)。

表 ヒノキ樹(きゅう果着生枝)における果樹カメムシ類の寄生状況

	チャバネアオカメムシ(頭/枝)					ツヤアオカメムシ(頭/枝)					合計
	成虫	老齢	中齢	若齢	計	成虫	老齢	中齢	若齢	計	
令和5年	1.5	0.1	0.0	0.1	1.7	0.1	0	0	0	0.1	1.9
平年	1.2	0.2	0.3	0.2	1.9	0.3	0.0	0.0	0.0	0.3	2.2

* 令和5年8月21、22、23日にヒノキきゅう果結実枝のビーティング調査を実施

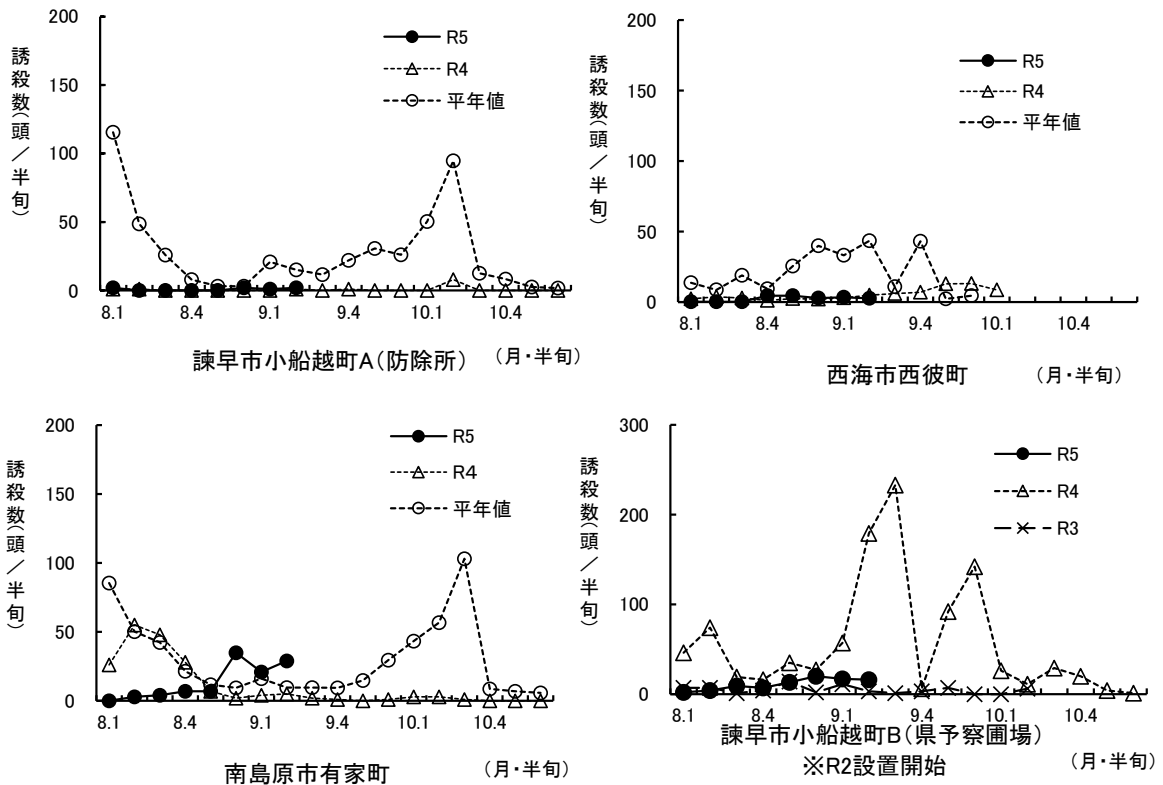


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

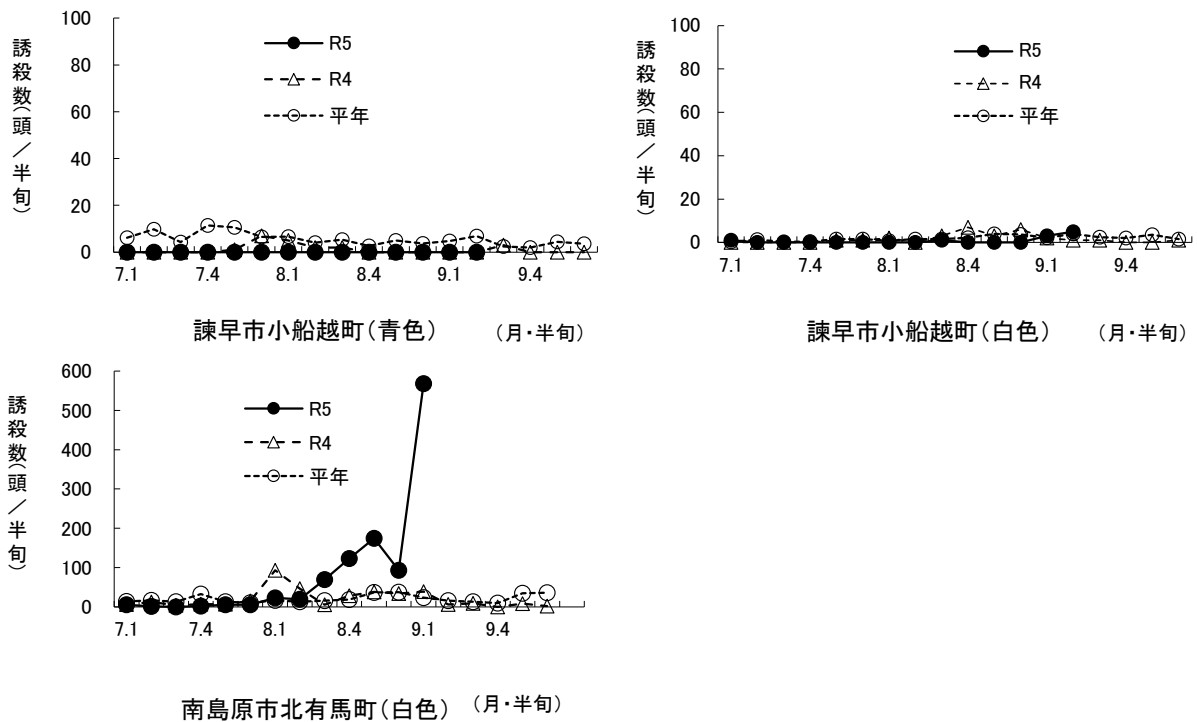


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシ類誘殺状況(予察灯;白色、青色)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 飛来量や飛来時期は園地により異なる場合があり、集中的に加害されるおそれもあるので、果樹園の見回りを徹底するとともに予め防除薬剤を準備し、飛来や被害果を認めたら早急に防除を行う。とくに山林に近い園地や毎年発生が認められる園地では注意する。

イ 果樹カメムシ類は主に夕方から夜間に飛来して果実を加害する傾向があるため、薬剤散布は夕方に行う。また、薬剤散布にあたっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（12筆）の結果、1㎡当たり発病葉数は3.2枚（3.3枚）、発生圃場率は75.0%（64.1%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P426～427の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（12筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は8.5頭（8.8頭）、発生圃場率は83.3%（85.2%）であり、一部多発圃場が見られた。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（12筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.1枚（0.1枚）、発生圃場率は8.3%（11.4%）であった。

イ フェロモントラップ（東彼杵町）による誘殺量は、平年より多く推移している（図）。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

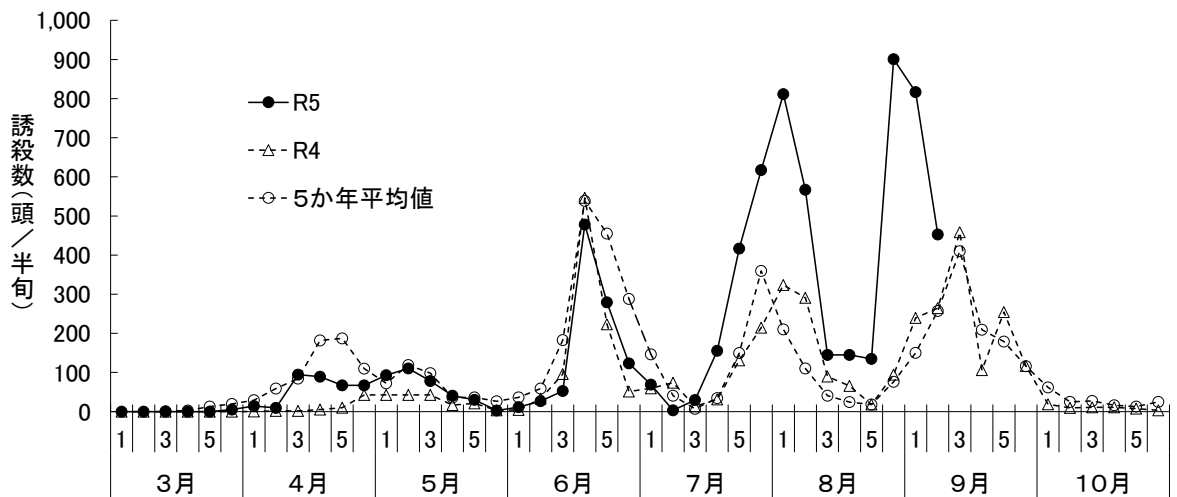


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況（東彼杵町：フェロモントラップ）

※茶業研究室調べ

（月・半旬）

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除適期の目安は、昆虫成長制御剤（IGR剤）は発蛾最盛期のころ、その他の薬剤は発蛾最盛期の約7日後である。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P428～431の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

4. チャノホソガ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（12筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.2枚（0.0枚）、発生圃場率は33.3%（3.8%）であった。

イ フェロモントラップ（東彼杵町）による誘殺量は、平年並～やや多く推移している（図）。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

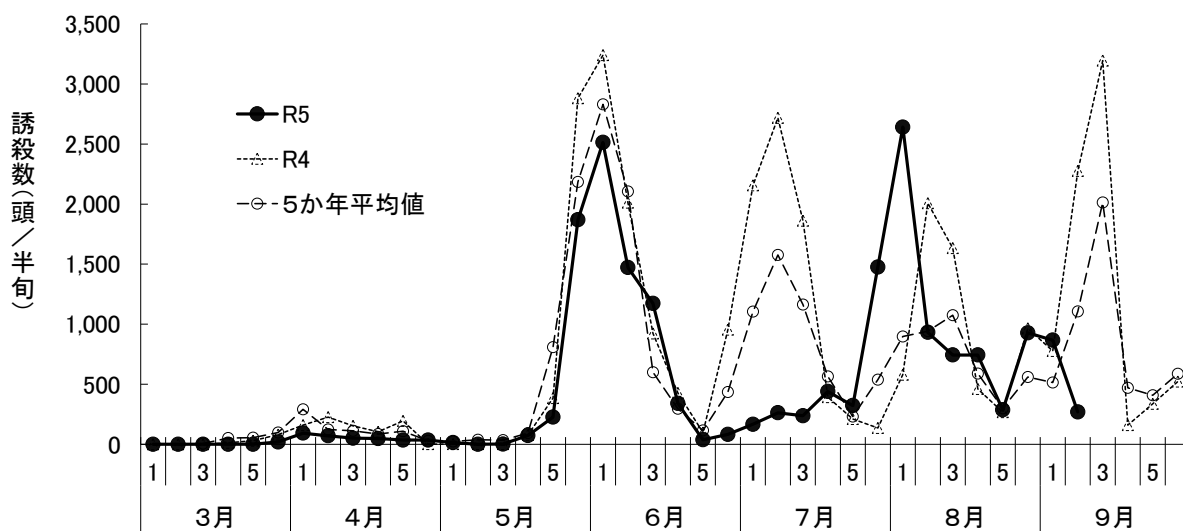


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵町：フェロモントラップ）
※茶業研究室調べ (月・半月)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 防除適期の目安は、昆虫成長制御剤（IGR剤）は発蛾最盛期のころ、その他の薬剤は発蛾最盛期の約7日後である。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P428～431の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は0.3%（0.8%）、発生圃場率は8.3%（14.8%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P428～431の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（12筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は3.0頭（1.6頭）、発生圃場率は58.3%（46.5%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和5年長崎県病害虫防除基準P428～431の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

7. クロシロカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率1.1%、発生圃場率10.7%）。

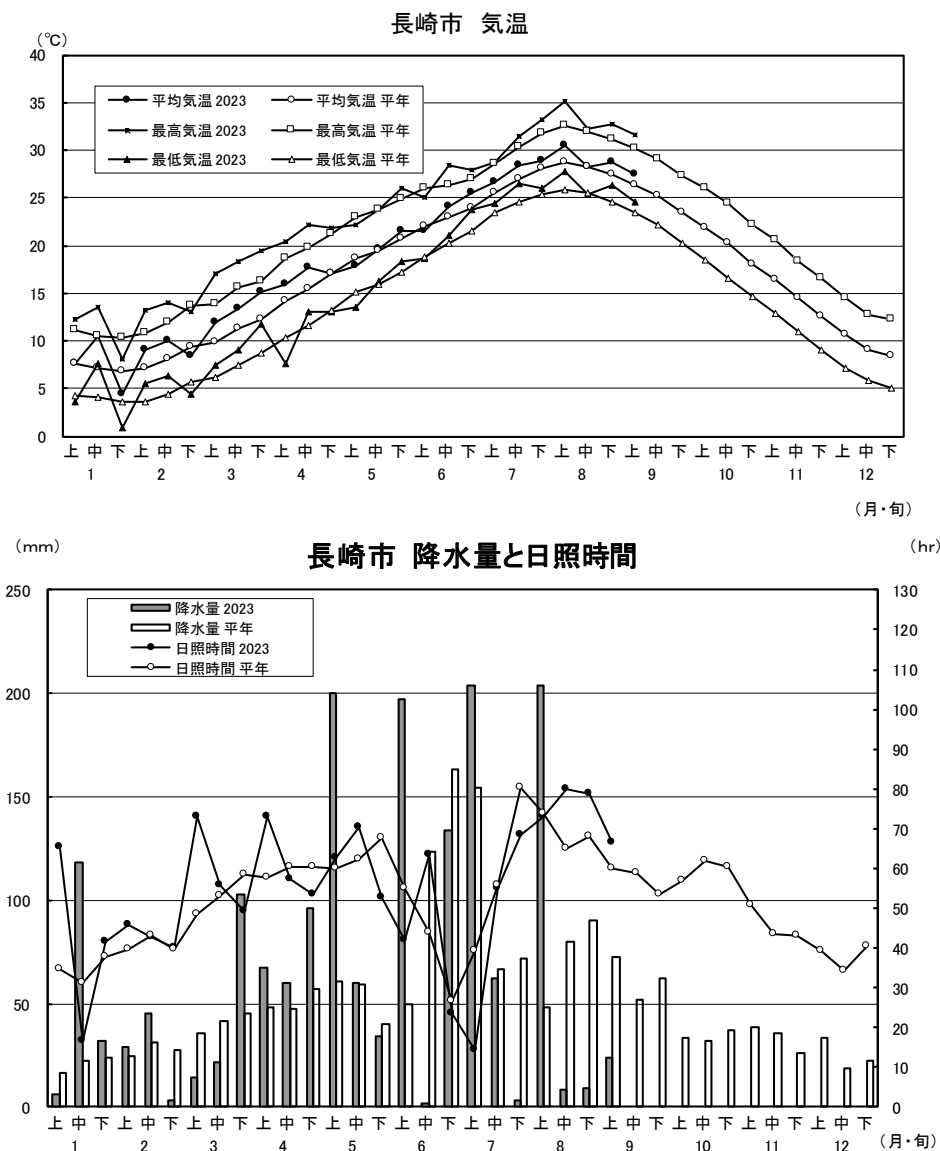
【参考】

(令和5年9月14日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	10	80
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

※予報対象地域：九州北部地域

令和5年の気象経過(長崎地方気象台)



- 長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>
- この情報に関するお問い合わせ
長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

